

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和 6年 9月定例会	
議案番号 議案名	認定第1号 令和5年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について
議員名・会派名等	嶋原 舞
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	<p>執行部のみなさま。</p> <p>いつも 松戸市民のため、真摯に執務に取り組んでいただき、ありがとうございます。</p> <p>今回の決算においても、多くの施策が市民生活の質を向上させ、地域の発展を後押しするものであったことを高く評価します。</p> <p>防犯灯整備事業の1億5千万円や、デジタル化推進事業に割りあてられた1億1048万円は、犯罪の抑止となったり、行政手続きの利便性を後押ししたり、大多数の市民のニーズに応えるものであり、効果を直接実感できる事業だったと思います。</p> <p>また、重層的支援体制整備事業では、 「まつどDEつながるステーション」のさらなる創出に取り組まれ、誰一人取り残すことのない地域共生社会の実現に向けご尽力していただきました。</p> <p>グリーンスローモビリティ地域推進事業にも共通することとして、事業をきっかけに、市民のみなさんが自主的に町会内や、他地区の方と交流を深め、新たなコミュニティを形成し、活動を広げていくような波及効果を生み出すことが出来たと思います。</p> <p>「誰一人取り残すことのない」という面では、 グローバル化が進む中、さまざまな国籍の方が共に生き、共に働く多文化共生の事業にもご尽力いただきました。</p>

今後も、多くの外国籍の方が市内で生活することが予想される中、国際化推進業務では、新松戸地域において、多文化共生に関する地域の困りごとや課題を抽出し、その課題解決のためのヒントやアイデアを模索する、松戸市多文化共生ワークショップが実施されました。

このような事業は、文化の異なる市民にとって、相手を理解するために欠かせないものであり、国際化施策推進事業に充てられた230万円は、額は小規模でも、地域の多様な人々が共に生活する基盤を築く重要なものであったと評価します。

一方で、いま松戸市内では、資金不足や担い手不足により、伝統的な地域・町会の催しがコロナ禍が空けても再開できなかったり、中止されたりしています。

今後、日本人と外国人の多文化交流が活発になると、外来語や外部の文化的慣習に触れることが多くなり、

意識しないと、異なる文化が融合し、個々の独自性が失われ、結果的に多文化ではなく、画一的な文化、同質的な文化が広がる可能性があります。

このような視点が多文化共生の事業を進める中に含まれているのか、のみ、気がかりであり、多文化共生を掲げる事業にしぼり、要望いたします。

日本人と外国人の多文化共生のまちを掲げる松戸市でありますので、松戸市の文化や自国の日本という国そのものを愛し、誇りに思えるような育成を同時にしていかなければ、他国と同等の多文化共生にはなりません。

令和5年度決算において、多文化、多様性を尊重する施策に賛意を表するとともに、松戸の地域固有の伝統的な習慣が次第に消えていき、次世代への継承が困難になるという事態が起こらないよう

小学生が大人になっても、松戸の歴史、字の由来、地域に根付いた伝統文化を語れるような教育、多文化共生の中で、日本の文化を学ぶ母国教育を今以上に重きを置いていただきたいです。

同様に、地域の文化財保護や、伝統行事の振興、地域の歴史的な教育の涵養や、神事を中心とした祭事等に補助していただけるよう求めます。

日本と外国、『多文化共生とは、自国の文化への理解を同時に深めていくことが含まれる』という観点を踏まえ、

事業の策定・予算編成に取り組んでいただけるよう
執行部の皆様に大きな期待を込めて

令和5年度決算 私の賛成の討論といたします。